

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275900122		
法人名	医療法人社団 慈優会		
事業所名	グループホーム日の出		
所在地	千葉県山武郡九十九里町片貝2582番地9		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海が近く、のびのびとした良い環境の中で利用者様一人ひとりの思いや尊厳を大切に、穏やかで、安全、安楽、今までの暮らしと変わりなく生活して頂く為に、経験豊かな職員全員がターミナルケアまで対応できる介護体制をとっております。又、施設に隣接する九十九里病院とも24時間医療連携をとっており、緊急時の医療体制も万全です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人と医療連携を取るとともに「重度化及び看取りに関する指針」で入居者や家族の意向を確認し、グループホームでの看取りを行う体制を整えている。「利用者一人ひとりの人格を尊重し、暖かな心の触れ合いを大切にします」「地域との連携を大切にします」「現場の声を大切に、サービス向上を努力します」という理念を管理者が中心になって、職員がケアする上で実践につなげる努力をしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(Aユニット)および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所独自の理念を作り、玄関、ユニットに掲載し職員全員が入居者一人一人の人格を尊重した介護が出来る様に取り組んでいる	「利用者一人一人の人格を尊重し、暖かな心の触れ合いを大切にします」「地域との連携を大切にします」「現場の声を大切に、サービス向上を努力します」というホームの理念を管理者と職員は日々確認しながら、ケアにあたっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事 産業祭 文化祭 町民体育祭などに参加し、交流を図っている	自治会、商工会に加入している。近隣の小学校の運動会、地域のお祭りや町内のカン拾いに参加して交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1度定期的開催してホームへの訪問を遠慮すること無く出来る状態を作っている 御家族や地域の方々との会話の中で説明、又掲示することで伝えている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1度定期的開催、ご利用者様ご家族、地域ボランティア、福祉職員、医療機関職員の参加をいただきサービス向上に生かしている	2ヶ月に一度開催している。入居者の認知症の症状について相談し、出された意見をケアする際の参考にして、サービスの向上につなげていくこともある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症の方の情報交換、介護ケアサービス等の情報交換を積極的に行い協力関係を築くようにしている	市が主催する勉強会に参加したり、入居者についての相談や情報交換をしている。管理者は頻りに市の担当者を訪問している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアを手動にし、施錠はせず、いつでも出入りが自由に出来る様にしている	玄関のドアは施錠していない。帰宅願望のある入居者もいるが、センサーと職員の見守りで対応している。歩くと転倒の危険がある人等に限り、家族の了解を得て車椅子の抑制帯を使用している。	禁止行為については管理者も職員も十分承知しており、止むを得ない事情も理解できる。しかし、人員に余裕がある時は抑制帯をはずす等、少しずつでも、身体拘束をしないケアの実践に向けての工夫が望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止勉強会、研修などに参加し知識、情報など学んでいる。入浴時やケア時などに身体観察をすることで異常の早期発見に努めている		

グループホーム日の出 自己評価(Aユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んだ事を職員間で、話し合いをし共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、必要説明事項を口答並びに文章により管理者、介護支援専門員から説明 ご利用者やご家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られた時に要望を聞いたり、ホームでの生活状態を図っている	玄関にご意見箱を置いている。また、面会時を捉えて、要望や意見を聞くようにし、運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニット 全体会議を行い意見の交換、提案を聞く機会を設けている	ユニット会議で意見交換をし、さらにその意見を全体会議に上げるようにしている。そこから出た意見をもとに、勤務体制の変更を実験的に実施しているところである。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を考慮しながら研修参加を勧めている。 職員個々の実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働きやすい環境を作っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療連携を取っている病院との勉強会などの参加したり研修の参加を勧めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会に入会している。山武エリアネットの会員であり山武地区、千葉県において認知症介護のネットワークづくりや勉強会を通じて サービスの質を向上させて行くように努めている		

グループホーム日の出 自己評価(Aユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全体が左記について努力をしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設見学、入所後健康診断を行ない入所の不安を解消する為の意見交換を行っている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記に同じ		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用様の手伝い可能な事については職員と一緒に食事の準備、洗濯物干し ホーム内の環境整備などを行っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用様の希望を聞き職員が対応できる範囲でドライブや散歩等連れ出している 不穏が強く職員対応が困難な時、御家族に応援を求めたり緊急連絡網により在宅職員に応援を求めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないように個人情報保護法に基づいて御家族、ご本人の承諾を得た方のみ面会可能にしている	職員と一緒に自宅に郵便物を取りにいったり、近所の人と話したりする入居者もいる。また、電話や手紙で馴染みの関係を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事はリビングで行いご利用者様同士の交流を図っている		

グループホーム日の出 自己評価(Aユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にし、他の施設に移った時は環境に慣れるまで面会に出向いたりして不安の解消を手助けしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握についてはご利用者様ご本人とご家族様の意向は平行線であることが多く其の調整に努力している	日々の会話や個別に話を聞く中で、入居者の思いや希望、意向の把握に努めている。また聞き取りが困難な場合は、家族からの意見も取り入れ、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況をよく把握しサービス担当会議を開き介護計画を検討している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースに合わせた生活を心がけ心身状態有する力を考慮し 日々の生活を援助していく。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各勤務帯において申し送りをを行い問題点があればケアマネに相談し解決を図っている必要に応じてカンファレンスを開いている	各入居者の担当職員が中心となって本人や家族の要望などを聞き、カンファレンスで他の職員の意見を集約し、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活状況をご利用者様個人の介護記録に残している 勤務帯で申し送りを行うことで情報伝達をしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるニーズに対応できる様柔軟な支援がその時にできる様 常に職員間で取り組んでいる		

グループホーム日の出 自己評価(Aユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御家族、ご利用様が希望される事で利用できるものについては支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携機関と契約をして常に受診可能な状態を保っているので健康を害した時や事故発生時は柔軟な支援をしている	法人経営の病院が歩いていける距離にあり、密に関係をとっている。眼科、整形外科等のかかりつけ医にかかる時は、職員が送迎するなど柔軟な支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な予防接種はご利用者様、御家族の承諾をいただき入居者全員が受けて頂いている。又、年1回お誕生日月には健康診断をしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された場合、毎日職員が様子を観に面会に行き病院関係者との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について入所時に確認 終末期を迎えた時主治医の病状説明終了した時点でホームでの看取りを希望された時に看取り介護の契約を成立させる	「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居の際に本人や家族に説明している。母体法人が持つ病院と連携し、希望に応じて看取りを実施している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が上級救命講習を受講しており急変時の応急手当や初期対応出来る様 実践力を身に付けている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回(年2回)防災避難訓練を行っている 消防の方、火災報知機点検業者の方にも参加して頂き、指導を受けている	消防署や火災報知器点検業者にも参加してもらい、年に2回、入居者とともに防災訓練を実施している。	昼夜を問わず入居者が安全に避難できる方法を習得することが必要と思われるので、夜間を想定しての訓練実施と地域住民にも訓練に参加してもらうなど、地域との関係、協力体制の構築についても期待したい。

グループホーム日の出 自己評価(Aユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応なので言葉掛け、ケアのやり方に気を付けながら行っている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声掛けやケアを心がけている。接し方等について職員同士で気がついたことは、声を掛け合うようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけ説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中で個人の生活パターンに合わせて食事時間、就寝時間を調整している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個人の希望先に送迎可能といているが現在は2ヶ月に一度訪問において散髪をしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等その時の体調を考慮しながら職員と共に食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒にすることも	毎日の食事のメニューは決まっているが、入居者の希望に合わせてたり、食材に応じてメニューを変更することもある。職員は入居者と同じテーブルにつき、声掛けしながら一緒に食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みなどひとり一人の状態を把握し、摂取量にむらが無いよう支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ないひとり一人の口腔状態をチェックし週一回の訪問歯科で報告を行っている		

グループホーム日の出 自己評価(Aユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導、オムツ交換を行なっている	自然に自立した排泄ができるようにチェック表などを使用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導などを行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常習の便秘には下剤服用、不規則の便秘については状態に応じて受診 10時のお茶、おやつ時など牛乳や果物を摂取して頂き、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望すれば、いつでも入浴できる様に努めているが時間帯によっては、困難な場合もある	一応入浴日は決まっているが、必要や要望に応じて随時対応している。入浴にかかる時間もできるだけ、入居者の希望に沿うようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	オムツ交換の時間の配慮など良眠を促せるような工夫を行い日中、起きている時間の増加、できるだけ体を動かして頂く		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんと効能、副作用など確認しながら内服支援を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや洗濯物たたみ、草取りとひとり一人が出来る事を行なっている 又ドリルや貼り絵なども職員と一緒にしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ戸外に散歩に行くように努めている その他、地域で行われる行事に参加したり、ホーム内で使用する食材などの買い物と一緒に出かけようしている	ホームに閉じこもることのないよう、天気の良い日には、散歩に出るようにしている。家族の協力を得てお墓参りをしたり、馴染みの美容院に行くこともある。	

グループホーム日の出 自己評価(Aユニット)・外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際はお小遣いから買い物をする職員も一緒に行く		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の公衆電話や事務所の電話をいつでも使用することが出来る。自分で出来る利用者様は自由に連絡を取れるように支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自由に使用できるようにしている。リビング、廊下にはご利用者様の作成した季節に合った貼り絵、イベントの写真等を掲示している	ホーム内は明るく、清潔であり、入居者が作った作品が壁に展示されたり、写真などが飾られている。季節の花を生けたり、のれんを掛けるなど家庭的な雰囲気を作っている。また、リビングの一部が畳になっており、洗濯物をたたんだりしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビは自由に観賞できるようにリモコンはつねにリビングに置いて好きな番組を観る事が出来る。又、ソファの設置により気の合ったご利用者様同士関わりを持つことが出来るように配慮している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所までご本人が自宅で使用しておられた家具、小物、食器等の持ち込みを許可し居心地の良い環境を整えている	入居者や家族の要望を聞き、これまで使っていた馴染みの家具や布団、小物など使い慣れたものを居室に持ちこみ、本人が居心地良く生活できるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造はバリアフリーになっており、足元の安全を保持している歩行訓練 筋力維持訓練は医療連携機関でリハビリを強化している		